

中国 J-20 ステルス戦闘機の生産分析

漢和防務評論 20150906 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国 J-20 ステルス戦闘機は、現在成都航空機会社で開発中ですが、最終的にどのような戦闘機が出来上がるのか興味が持たれるところです。
中国空軍としては、真に西側の戦闘機に対抗できる機体を求めていると思いますが、ロシアやインド、日本も同種のステルス機を開発中であることから、国威発揚が優先し、急ぐあまり中途半端な機体を登場させる可能性があります。

KDR 平可夫特電：

衛星写真から見た成都航空機会社の格納庫建設の状況から判断すると、J-20 ステルス戦闘機は、まもなく少量生産が開始されるであろう。J-20 の新たな関連施設が続々と建設されている。KDR がすでに分析し報道したが、新たな格納庫及びエプロンが 2014 年に完成し、さらに 2014 年から 2015 年にかけて新たな工場が建設中である。この施設は 2015 年 7 月の時点では未だ完成していない。新工場の面積は 246 M×200 M で、ここには新たな航空機の生産ラインが設置される可能性がある。KDR は J-20 原型機の駐機位置を詳細に分析している。多くの場合、この新工場からの直線距離が 175 M しかなかったが、2014 年になると、新たに格納庫が建設されたため、駐機位置が変更になっていた。新たな建築物は、ネット状の屋根を採用しているが、これは大型組立工場の特徴を示す。内部の構造は相当広く、仕切りがない。この工場を建設するため、多くの既存建築が取り壊された。

KDR は、この工場が J-20 の生産工場であると判断している。もしそうだとすれば、J-20 のおよその生産時期を推測することが出来る。現在の迅速な建設速度から見て、2015 年には工場の基礎建設が完了し、2016 年には J-20 の実験生産が開始される可能性が最も高い。このような大型の生産工場であれば、最終段階には 2 本の生産ラインが建設されるのか？ 追及していく価値がある。新たな工場は工場全体が 2 番目に大きな工場であることから、J-20 の生産規模が推測できる。J-10A/B の生産から成都航空機会社の生産能力を推測することが出来る。ピーク時には、J-10 の年間生産機数はおおよそ 14 乃至 18 機の間にあった。このことから J-20 の生産能力を推算すると、一旦安定した後期生産段階に入ると、J-10 の年間生産機数を下らないと思われる。2014 年からの成都航空機会社における工場建設状況から判断すると、“成飛” の“保 20” (保佳 J-20) (注：J-20 に社運をかける) の目的はすでに達成した。KDR は、J-10 の生産開始以来、2007 年以降、成都航空機会社第 132 工場の基礎施設は少なくとも 2 倍に拡大したことに注目している。特に 2007 年には J-10 の生産速度が加速され始め、工場の保安部の建物群が拡大した。燃料タンクは、以前は 6 個だけであったが、2002 年から 8 個に増えた。当時、これら

の動向から、J-10 の生産と試験飛行が間もなく開始されると推測した。

以上